

「段ボール製間仕切り」の特許

調査者 2012年6月17日 橋田 義輝

【公開番号】特開2006-161310 【公開日】平成18年6月22日(2006. 6. 22)

【発明の名称】段ボール製間仕切り

【国際特許分類】E04B 2/74 (2006. 01) 【FI】 E04B 2/74 511 N

【出願番号】特願2004-350801 【出願日】平成16年12月3日(2004. 12. 3)

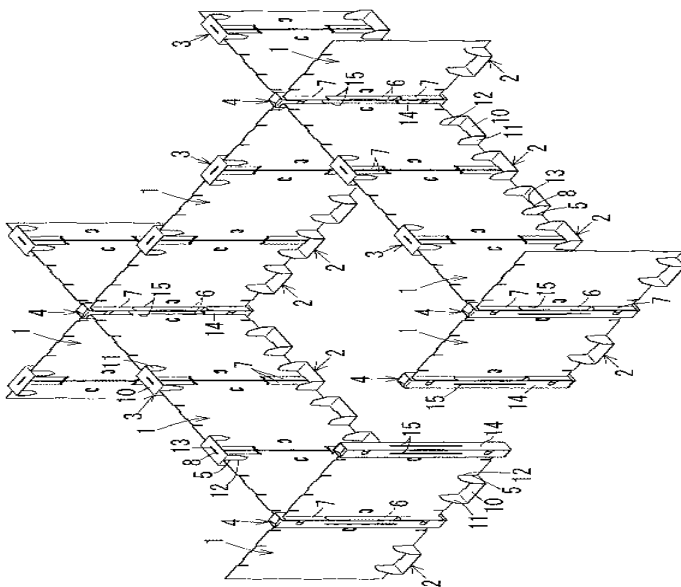
【出願人】レンゴー株式会社 【発明者】山川 治人、上井 孝敏

【課題】パネルを容易に接続して区画を構成できる段ボール製間仕切りを提供する。

【解決手段】段ボール製のパネル1、下部ジョイント2及び上部ジョイント3並びに支柱4から成り、前記パネル1には、上縁及び下縁に複数の切込5を入れ、両側中間部に差込片6を、上下部に折曲片7をそれぞれ形成し、前記下部ジョイント2及び上部ジョイント3には、連結板10の両側に連設した立上片11の先端に切込12を入れ、前記支柱4には、巻き込みにより角柱状をなす各側板14に縦方向のスリット15を設け、パネル1の延長接続部では、下部ジョイント2及び上部ジョイント3が隣接するパネル1に跨るように、連結板10から起立させた立上片11の切込12と、パネル1の切込5とを噛み合わせ、パネル1のコーナー接続部では、パネル1の折曲片7を折り曲げて、差込片6を支柱4のスリット15に差し込むようにする。

【特許請求の範囲】 【請求項1】

段ボール製のパネル、下部ジョイント及び上部ジョイント並びに支柱から成り、前記パネルには、上縁及び下縁に複数の切込を入れ、両側中間部に差込片を、上下部に折曲片をそれぞれ形成し、前記下部ジョイント及び上部ジョイントには、連結板の両側に連設した立上片の先端に切込を入れ、前記支柱には、巻き込みにより角柱状をなす各側板に縦方向のスリットを設け、パネルの延長接続部では、下部ジョイント及び上部ジョイントが隣接するパネルに跨るように、連結板から起立させた立上片の切込と、パネルの切込とを噛み合わせ、パネルのコーナー接続部では、パネルの折曲片を折り曲げて、差込片を支柱のスリットに差し込むようにした段ボール製間仕切り。



下記特許は、本間仕切りの「不燃加工」に応用されたものと推定し掲載する

【公開番号】特開2006-328572 【公開日】平成18年12月7日(2006. 12. 7)

【発明の名称】板紙

【国際特許分類】D21H 17/67 D21H 17/01 D21H 27/00 (2006. 01)

【FI】D21H 17/67 D21H 17/01 D21H 27/00 E

【審査請求】未請求

【出願番号】特願2005-151110 【出願日】平成17年5月24日(2005. 5. 24)

【出願人】レンゴー株式会社 【発明者】後藤 しおり、伊藤 健一

【Fターム(参考)】4L055 AG98 AG99 AH01 BC17 EA08 EA13 EA16 FA20 GA05 GA06

【要約】【課題】ペーパースラッジ焼却灰や石炭灰などを、比較的容易な方法で加工して、有用に用いて廃棄物を減らす。

【解決手段】ペーパースラッジ焼却灰や石炭灰を、平均粒径が20~100 μ mであるよう調製して、0. 01重量%以上、3重量%以下混合させた板紙を製造する。

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ペーパースラッジ焼却灰、石炭灰、又はそれらの両方からなり、平均粒径20 μ m以上、100 μ m以下である灰を、0. 01重量%以上、3重量%以下含有する板紙。

【請求項2】

上記灰の嵩密度が、0. 1g/cm³以上であり、1g/cm³以下である、請求項1に記載の板紙。

【請求項3】

上記灰を、パルプ原料に対して0. 01重量%以上、10重量%以下混合した板紙原料を用いて製造された請求項1又は2に記載の板紙。

【請求項4】

複数の層からなり、層間に上記灰を塗工して積層することで製造された、請求項1乃至3のいずれかに記載の板紙。

【請求項5】

請求項1乃至4のいずれかに記載の板紙を用いて製造されたダンボール用中芯。